

読書感想文が苦手な お子さんにお困りの お家の方へ

コツをつかめば、書けるようになります。

普段の生活で意識するだけで、表現力がアップするかも？

どんな本を選べばよいか・・・

→好きな本、好きなジャンル、好きな絵、好きな作者で選びましょう。

「好きだなあ。」「おもしろいな。」「気になるな。」
という気持ちは選んだ理由になります。また、最後まで書き上げたい気持ちにもつながります。

(そのときの気持ちを付箋に書いておく。)



書くことが分からない・・・。



→引用したい文や気に入った場面を見つけて
理由を書くようにさせてみましょう。

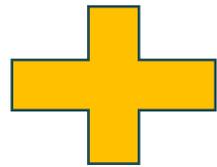
(そのページに付箋を貼っておく。)

すきなところ

いいなと思ったところ

感動したところ

ドキドキしたところ



理由

なぜなら・・・からです。

それは・・・だからです。

引用する文は、「 」をつけます。

エピソード、自分の経験と
つなげて書くことを意識さ
せましょう。

付箋が効果的☆ キーワードだけでも書かせておくといいですよ。

この本を読んで

「ぼく」のように自分の本当の気持ちを素直に相手に伝えることをは難しいと思う。最後に、やっと願い事が叶って、周りの先生やお母さんがやさしくなってくれて嬉しい気持ちになった。

すきなところ

「おこだでませんように」と書かれた短冊がある場面→心が動いた。心の声をやっと文字にして表すことができてよかった。一生懸命書いたんだろうな。

選んだ理由

作者の「くすのきしげのり」さんの本がすきだから、他の本を読んでもみようと思った。

これからの自分

私も「ぼく」のように、怒られても、言い訳をせず、正直な人になりたい。でも、本当に伝えたいことは、きちんと相手に伝えて分かってもらいたい。

すきなところ

七夕の願い事が叶う場面→やっと自分の気持ちを先生に伝えられてすっきりした。これまで、自分の気持ちをうまく伝えられずにたくさん我慢していたから、本当によかった。涙がでるほどうれしい。

あらすじ

この本は、いつも怒られる「ぼく」が、心の中で思っていることが描かれている。七夕の願い事に書いたことで、本人も周りもはっとさせられる本。

どこに何を書けばいいの？

→型を意識して書くことを意識させましょう。



はじめ

- ① よびかけ（言葉の引用）
- ② 登場人物の紹介
あらすじ（いつ、どこで、だれが、どのようにした）
その本を選んだ理由

中

- ③ すきなところがいくつあったか。
- ④ 一つ目は、……です。
理由は、……からです。
- ⑤ ニつ目は、……です。
理由は、……からです。

おわり

- ⑥ この本を読んで思ったこと
- ⑦ これからの私

作文を書くときのポイント



- 型に合わせて改行し、読みやすく書く。
- 一文を短く。だいたい、50字程度にまとめる。
- 本文の言葉ばかりにせず、途中途中で自分の感想や思いを書いていく。
- 主人公の魅力と自分を比べてみる。「きっと私なら・・・したと思うな。」

家庭でできること①

○言葉の使い方を見直す。

「まじやばい」→「とても 素晴らしい。」
「とても 悲しい。」

語彙の少ない子どもの時は、知っている言葉で済ませようとしたり、流行りの言葉を何にでも使おうとする傾向があります。

そんなとき、「こんな言葉があるよ。」「ほかの言葉を使うと？」と、語彙を豊かにするような大人の働きかけが必要です。一生懸命つくった料理に対して、「今日のご飯、やば。」と言われるのと、「今日の料理、とてもおいしかったよ。」では、受ける印象が違いますよね。豊かな言葉の担い手として、子どもたちには良い言葉を使ってほしいものです。

家庭でできること②

○連想ゲームをする。

表現するために必要な言葉を増やすのは、家庭でもできることです。

(例) 「りんごといえば？」→赤、丸い、甘い、おいしい
「犬といえば？」 →ふわふわ、かわいい

など、楽しみながらやってみるのはいかがでしょうか。

家庭でできること③

○具体的に伝える。

こそあど言葉や簡単にした言葉を日常的に使っていませんか。

「これとって。」 → 「ドレッシングとって。」

「ちゃんとして。」 → 「背筋を伸ばして、正しいお箸の持ち方で食べて。」

「チンして。」 → 「電子レンジであたためて。」

日常で具体的に伝えることは、文章化の第一歩につながります。

家庭でできること④

○聞き上手、話し上手になる。

親が出かける際に事前に情報を伝え、子どもに繰り返し言わせる。覚えていたら、褒めて価値づける。

(例)

「今日は、●●に行くけど、○○とか△△があるよ。ほらこんなところ。(写真を見せながら)大事なことがあった!(地図を見せながら)トイレが遠いのよ。今から、お母さんが言った後、繰り返してね。『トイレに行きたくなったら、早めに知らせる。』」

→「トイレに行きたくなったら、早めに知らせる。」